

手すき和紙漉きの技術を活かした インテリアエレメントの提案

建築都市工学部
住居・インテリア学科
助教



吉村 祐樹

研究シーズの紹介

和紙は良質な透光素材です。透光素材としては曇りガラスや洋紙、プラスチックなどがありますが、和紙はそれらの素材とは異なり、長い繊維が絡み合い繊維同士の隙間が無秩序な大きさに空いています。この隙間を光が直接または乱反射しながら通過するため、特有の柔らかな光を生み出すとともに、複数枚重ねても、透光性が高いことが特徴です。本研究では、

和紙の透光性に着目し、特に手作業で制作される手すき和紙の技術（立体漉き・重ね合わせや漉き込みなど）を活かした照明器具およびインテリアエレメントの提案・制作を行なっています。これまで、民泊や住宅、クリニックなどに照明器具や建具・ドアなどを制作しました。



立体和紙漉き技術 大判サイズの和紙

- 立体的に和紙を漉く（作る）ことが可能です。
- 畳サイズ程度の大判の和紙を制作できます。



■立体和紙すき技術を活かしたあかり制作



■大判サイズの特注和紙制作

期待される活用シーン

●住宅やオフィス、商業空間を彩る装飾的な照明器具が欲しい。



空間に視覚的なポイントを作ることができます。



●民泊などの宿泊施設で安らぎ・癒しの空間を演出したい。



和紙の柔らかな光で癒しの空間を実現できます。



その他の研究テーマ

椅子のシミュレーション装置を用いた教育・研究